



5月14日オープン

生まれ変わる 湯浅駅旧駅舎

歴史ある建物を未来へ
 昭和2年（1927）、国鉄紀勢線（現在の紀勢本線）の延線に伴い、紀伊湯浅駅（現在の湯浅駅旧駅舎）が開業しました。昭和2年当時、紀伊湯浅駅の開業は、湯浅の市街地の構成にも大きな影響をもたらしたと言われていました。鉄道の開通により、駅周辺には官公庁施設が移転し、繁華街が形成されるなど多くの人々が行き交い、賑わいが生み出されました。そして、昭和という新しい時代の幕開けに相応しい市街地が駅の界限に開かれ、湯浅駅旧駅舎は令和元年まで、湯浅の玄関口として重要な役割を担ってきました。

このような背景を踏まえ、歴史上価値の高い建造物として、令和3年12月「歴史的風致形成建造物」に湯浅町が指定しました。湯浅駅旧駅舎の歴史を後世へ引き継ぎ、地域住民や観光客の交流の場として整備することでかつての駅前の賑わいを取り戻すべく、改修工事に至りました。開業当時から今回の改修工事まで、一部改変が見られるものの、建築当初の姿が良く残されていたことも、湯浅駅旧駅舎の特徴の一つです。

CONTENTS

- P2……特集 時代を綴る湯浅駅旧駅舎
- P6……町の話
- P8……第4弾 使って応援！ゆあさクーポン
- P9……令和5年度七夕まつりを開催します！／本人通知制度への登録はお済みですか？
- P13……保健師メッセージ-食事と運動で「健康づくり」-
- P20……町長メッセージ／湯浅えき蔵図書館きてみて！
- P21……6月カレンダー／町民カレンダー-2024作品募集

広報 PUBLIC INFORMATION OF YEASA
ゆあさ

6月号
VOL.583



湯浅駅旧駅舎の外観で真っ先に目に留まるのが「レンガ色の屋根」。ひし形がいくつも重なり、レトロな雰囲気と調和しています。この屋根は、過去の写真や現場の痕跡により開業当初も同じ姿をしていたと推測されています。

今回の改修で復原したこの屋根の屋根材に、町内小中学校に通う児童・生徒が自分の名前を書き入れています。将来を担う子どもたちと一緒に、湯浅駅旧駅舎は、これから訪れる時代を共にします。

レンガ色の屋根に込める願い



▲オープンを記念するテープカット



▲大勢の子どもたちでにぎわう餅まき

湯浅駅旧駅舎オープン記念イベント

たくさんのご来場ありがとうございました

要伝統的建造物群保存地区に至るまちなかの古民家等の地域資源を活用し、色々な魅力を創出することで、歩いて周遊したくなるまちづくりに取り組んでいきます。

新しく改修した館内には、開業当初から設置されている青色のベンチ、復原した窓枠、切符販売窓口を模したカウンターがあり、開業当初の姿を受け継いでいます。

また、地元の素材や産品を使った食事を楽しめる飲食店「湯浅米醬」では、新しい湯浅駅旧駅舎の姿を感じることができそうです。

その他、特産品販売スペース、湯浅町の情報を発信するインフォメーションコーナー、外には電車を間近で見ながら食事ができるウッドデッキを設けています。

地域の人たちはもちろん、観光で訪れた人々も利用できる新しい憩いの場として生まれ変わりました。



ハート型の発見！
テーブルを発見！

これからのまちづくり

株式会社つぎと
代表取締役
内田 一平氏
[うちた いっぺい]



2021年12月に湯浅町・紀陽銀行と3者において「湯浅町における歴史文化等を活用した地域活性化に資する包括連携協定」を締結し、それを実現する取り組みの端緒として、今回の湯浅駅旧駅舎の改修活用を湯浅町と協働し行いました。

この取り組みを推進するためにまちづくり会社として「株式会社E.N.J.」を設立し、今後は同社を実施主体として湯浅町旧駅舎の活用を中心とした駅周辺の活性化を進めると共に、重